

ヒヤリ・ハット事例集



公益社団法人 香川県シルバー人材センター連合会

ヒヤリ・ハット事例集の発行にあたって

最近、傷害事故が多発しております。これらの事故を防止するひとつの手段として、会員の皆様から就業中や就業途上において、事故に直接結びつかなかったものの、「ヒヤリ」としたこと、「ハット」したことの事例を提供していただき、冊子として発行いたします。事故をゼロにしようとするには、まず、怪我にならなかったが、ヒヤリ・ハットした事例を学ぶ必要があります。

“1件の重大事故が発生する背景には、29件の軽い災害と300件のヒヤリ・ハット事故がある”といわれています。これを、ハインリッヒの法則といいます。以下のヒヤリ・ハット体験事例は、昨年1年間に、連合会において、各センターにお願いして、会員の皆様から報告があった事例を収集したものです。重大事故の発生を未然に防ぐためには、日々の体験から一人ひとりが気付いたことを共有することが、事故防止への近道であり、そのためにも、ヒヤリ・ハット体験事例をよく読んで事故を未然に防いでください。

最後に、貴重な体験をお寄せいただいた会員の皆様と、事例を取りまとめくださった各センターの担当者にお礼申し上げます。

平成28年2月

公益社団法人 香川県シルバー人材センター連合会



通し番号	職種	どうしていた時	ヒヤリハットした時の状態	この時の問題点	この体験で反省・注意・改善したこと等
1		剪定のため移動時	庭に設置していた踏み台に登った時、 <u>踏み台が壊れて転倒しそうになった。</u> とっさに横の木にかまきり転倒を免れた。	元々設置してあったので <u>改めて確認しなかった。</u> 劣化していた。	一応 <u>疑ってみる</u> ようにする。
2	剪定	高さ5m位の玉造のキンモクセイをトリマーを使って剪定作業時	トリマーで剪定をしているときに、スズメバチの巣にトリマーの刃があたり、 <u>中にいた蜂が一度に襲ってきて刺され、意識が朦朧としたので</u> すぐ病院に行き点滴をすると気分がよくなった。	毎年キンモクセイは自分が剪定しているので <u>油断</u> した。	スズメバチが飛んでいるときには、十分注意すること。 <u>木を棒でたたいてみる。</u> 足長蜂にも注意するようになりまし た。作業する前に、ハチ等がないか調べてから取り掛かるようにして、刺されたら速く病院へ行くことを心がけています。
3		5階建てマンションの中庭にある木の剪定をしている時	午後3時頃、マンション中庭で剪定をしていた時、汗がものすごく出て <u>意識が朦朧</u> となり5分間ぐらい気を失っていた。自分の横の木で剪定をしていた会員が、 <u>鋏の音がしないことに気づき、</u> 大事に至らず良かった。	高い建物の谷間で風が通らず温度が上がり40度くらいになったと思います。 <u>こまめに、水分を取って熱中症に気をつけます。</u>	夏場の暑いときには無理をせず、こまめに休み、 <u>水分を多く取る</u> よう心掛けています。時々 <u>声をかけ合</u> って安全作業に心掛けています。普通ときには、二人で仕事をしているが、夏場の暑いときには、4人で作業をするように <u>無理をしない</u> よう心掛けています。

通し 番号	職 種	どうしていた時	ヒヤリハットした時の状態	この時の問題点	この体験で反省・注意・改善したこと等
4	剪 定	マキの木をトリマーかけていた時	玄関前の地面のコンクリートが、 <u>滑りやすい状態</u> であった。	毎年同じ場所であり、 <u>慣れていたので</u> 、脚立前足に止め金をしていなかった。	<u>落ち着いて周囲の確認を行い</u> 、止め金、止め縄を行い作業するという <u>基本動作を守り</u> 、 <u>マンネリ化の防止</u> につとめる。
5		剪定後、処理木を片付けしていた時	車庫前に物を置き、シートを被せていた。長い枝がシートに当たり、 <u>ハチが飛び出した</u> 。	シートの下に巣があると <u>全く思わなかった</u> 。	蜂が2～3匹飛んでいたのは、確認していたがシートの下に巣作りしていたと思っていなかった。何年も剪定しているが、 <u>巣は、植木内部に作るものと思い込み</u> していた。
6		剪定作業で場所の移動をしようとした時	樹木や地面の状況が悪く、不要物が多くあり、周辺に石、ビン、缶、ゴミ等があり、悪い要因が多くあったため、 <u>バランスを崩して、転倒</u> しそうになった。	樹木が多くあり歩くのが困難で不要物が多くあり樹木の横に泉水まであった。当時は、 <u>小雨で地面も滑りやすかった</u> 。	いかなる時でも周囲の状況を十分に見渡し作業に支障をきたすならば、必ず排除し万全の状態で作業できるようにしたい。また、 <u>雨天時は、作業を中止</u> する。この現場は、石、瓦、ビンなどが散乱しており、まず、 <u>第一に整理、整頓し、安全を確認してから作業に入る</u> ようにする。(5Sを必ず守る。)

通し 番号	職 種	どうしていた時	ヒヤリハットした時の状態	この時の問題点	この体験で反省・注意・改善したこと等
7	剪 定	山茶花の剪定作業中移動していた時	雑草が茂っており、その中に植木鉢、石ころ、草のかずら等があり、 <u>足を取られて</u> 転倒しそうになった。	作業に入る前に周囲の状況を見て <u>危険潜在要因</u> がある場合は、 <u>まず取り除いてから</u> 作業に入る。	作業に入る前に <u>周囲の状況</u> を十分見て危険潜在要因を必ず取り除くようにする。
8		脚立を使用して剪定作業するために登っていた時	脚立を使用して剪定作業するため脚立を二段登った時、 <u>脚立が右へ傾いた</u> 。	脚立の足元の <u>地盤が軟弱</u> だった。	脚立を設置するときは、地盤を確認するようになった。また、合板等を敷き <u>脚立を水平</u> に設置するようになった。脚立使用の作業は、 <u>無理しない</u> ようにする。
9		庭木の剪定作業をしていた時	お客様の敷地と道路の境目の交差点に脚立を立てていた。 <u>お年寄りの運転</u> する車が左折時に左後輪で <u>脚立の脚を引っ掛けて</u> 脚立が破損した。(人、車は異常なし)	車が通る事を考えていなかった。 <u>カラーコーン</u> を準備していなかった。	<u>脚立、道具等の一時置場は、広くて作業、通行に支障ない場所</u> に置くようにした。今回は、脚立の破損で終わったが、人身事故にもなる恐れがあるので、今後は十分注意する。
10		剪定作業時	脚立を使用し剪定作業中、 <u>風</u> にあおられて突然脚立の <u>脚がふわっと浮いて</u> 脚立が倒れて、そのまま身体とも倒れました。その時、ヘルメットを使用していたので無傷で済みました。	脚立の足元は <u>ふかふか状態</u> でした。ロープなどで止めていなかった。	風のあるときは、ロープなどで縛り <u>固定してから作業</u> を始める。作業日の気象などを見極めながら作業すべきと思いました。

通し 番号	職 種	どうしていた時	ヒヤリハットした時の状態	この時の問題点	この体験で反省・注意・改善したこと等
11	剪 定	脚立の上で剪定 作業時	トリマーで作業中、奥側を剪定して脚立が動いて落ちそうになった。	回りに多くの木があり、土間も水平でなかった。脚立の設置位置や姿勢も悪かった。	安全な作業場の確保、無理な体勢で作業しない。周囲の確認も大切である。
12		剪定作業時	脚立に登って作業中、チェーンのたるみ分脚立が滑った。(40cm)	脚立のチェーンが少したるんでいた。	脚立のチェーンを張るときは、たるみをできるだけ少なくする。油断大敵と思った。
13		剪定現場に向う 途中の時	軽トラに積んであった脚立(8尺)が、突然路上に落下した。	施主との打合せ時間に気を取られ急いでいたので、車体と脚立にロープを掛け忘れていた。	通行人がいなかったのが幸いでした。あわてず、準備は入念にする。
14		大木の伐採後、 小枝、小切整理 時	7名にて傾斜面の大木を伐採作業。4名で下側の平地で切断材を片付けしている所に、直径45cm位の大木を幅40cm位に切断した材木が、上側から転がり落ちてきた。危機一髪で難を逃れた。	安全確認不足、連絡、合図不足。	傾斜面の作業については、上下作業の人と十分連絡を取り安全確認を徹底する。数名で、危険と思える作業については安全に対する見張り役を配置する。

通し 番号	職 種	どうしていた時	ヒヤリハットした時の状態	この時の問題点	この体験で反省・注意・改善したこと等
15		斜面の庭木の剪定時	斜面に八尺の脚立を立て、五段目に登ったとき右に傾き倒れそうになった。一本脚を高い方に、両脚を斜面に平行に立てていたが、右足の下に瓦片が斜面に沿って入っており、 <u>足の爪が滑って傾いた。</u>	最初に脚に <u>荷重を掛け確認</u> しなかった。	斜面に脚立を立てるときは、脚が滑らないよう <u>しっかり食い込んでいるか荷重を掛けてみる。</u>
16	剪 定	庭木剪定作業時	高さ8m位の高木のモチを登って剪定作業中、 <u>手で握った木が折れて、転落</u> しそうになった。命綱をつけていたので下には落ちなかった。	手で握った枝(直径10cm位)が、 <u>枯木か生木か</u> 分からなかった。	常に高いところの作業(脚立を使用しない程度)では、命綱を着けて剪定作業をする。今後、 <u>手をかける枝は枯木でないか注意</u> する。
17		松の木剪定作業時	松の木1本の作業であったが作業中、スズメバチの巣があり、 <u>時期的にも問題がないと判断し、作業にかかったが蜂は活動中</u> であった。殺虫剤で処分した。	判断 <u>甘さ</u> 。	蜂の巣などがあった場合、作業前に長い棒等で数回連打する。 <u>状況を確認</u> することが大切と思った。

通し番号	職種	どうしていた時	ヒヤリハットした時の状態	この時の問題点	この体験で反省・注意・改善したこと等
18		松の木の剪定作業時	当日ベテランの会員とペアで松の木の剪定をするため、脚立に登り木に移ろうとした時、 <u>脚立が傾き落下しそうになった</u> 。その時、ベテラン会員が気付き、脚立を支えてくれたので事なきをえた。	少し足場の悪い所に、脚立を立て掛け、大丈夫だろうと <u>安易な気持ち</u> で作業にかかった。	脚立をセットするときは、万が一に備え、ロープで木と脚立を結びつけ、傾かないようにすること。木に移った時も、落下防止のため、安全ベルトをすること。予備のベルトがあるので使うようにベテラン会員から戴いた。これ以降、脚立使用時は必ず、 <u>ロープで木と脚立を固定</u> し、また、木の上での剪定作業時には、 <u>安全ベルトを着用</u> し傷害事故の防止に努めています。
19	剪定	伐採をして木の上に上がっていた時	伐採の木の上に上がり、そこへ脚立が倒れてきた。草むらのため <u>脚立の安定が悪かった</u> 。すぐに、枝にぶら下がり、地面に飛び降りた。	足場の <u>確認不足</u> 。	もう一度足場の確認をする。作業の場所によっては、 <u>一人でなく二人で作業するべき</u> と思った。
20		高木の途中芯止め切断作業時	高木の切断作業時、 <u>切断した木</u> がかずらにからみ落下せず、三脚梯子の上段より枝をつかみ引いたとき、力強く引っ張ったため、 <u>頭上に落下</u> 、ヘルメットを着用のため難なく済んだ。周囲が畑で足場が良かったために助かった。	三脚を立てるなら倒れない策を講じる。 <u>ロープを掛け安全策をとる</u> 。大きな枝切り、芯切りの時は、 <u>1人作業をしない</u> 。	仕事にも安全策をとる。常にヘルメット着用。声掛け運動、 <u>1人作業を避ける</u> 。

通し番号	職種	どうしていた時	ヒヤリハットした時の状態	この時の問題点	この体験で反省・注意・改善したこと等
21	剪定	枯れ枝の切り落とし作業時	台風の影響で遊歩道に垂れ下がっていた枝を、木の枝に足を掛けてチェーンソーで切断していた時、 <u>足元がふらつき落下した</u> 。その時、チェーンソーは前に放り投げたが、落下してもエンジンは回っていた。	遊歩道の上(2m)の樹木の <u>安易に切断作業</u> と思い、安定した <u>足場の確保が出来ていなかった</u> 。	チェーンソー等を使用する場合は、安定した足場等の確保を痛感した。 <u>はしご、あゆみ板の使用と安全ベルト等により身体を固定</u> する。チェーンソーを落下する前に前方へ投げ出したため、大事には至らなかったが、今思ってもヒヤッとした体験でした。
22		剪定作業時	歩み板を使用して剪定作業をしていた時、 <u>歩み板がぐらつき落ちそうになった</u> 。	個人宅の庭で <u>足場が少し悪かった</u> 。	<u>足場の確認</u> を十分にして、歩み板の間隔を狭くし、作業する。また、 <u>脚立と固定</u> したりして、より安全に作業しないといけないと感じた。
23		剪定作業時	作業の移動中、石垣の石が濡れていて、滑りそうになった。	ゆっくり移動しなかった。石が濡れていることを <u>確認しなかった</u> 。	<u>ゆっくり</u> 、入念にする。作業 <u>現場の確認</u> の必要性。
24		三脚を上げていた時	低いし、下は砂場なので深く考えず、三脚を立てたが、 <u>前の一本脚が砂の中に入り、上がる時にバランスを崩して、落ちそうになった</u> 。	ロープで <u>固定</u> したり、前脚に <u>板を敷く</u> べきだった。	<u>自信過剰にならず、無理をしない</u> 。いつも、作業前に会員同士「無理するな、気をつけろ」と <u>声を掛けあっている</u> がさらに、声を出し再確認したら良いと思う。

通し 番号	職 種	どうしていた時	ヒヤリハットした時の状態	この時の問題点	この体験で反省・注意・改善したこと等
25	剪 定	竹の伐採時	倒れてきた竹の枝で顔を叩かれた時、目に当たっていたら失明したかもしれない。	斜面において、チェーンソーで伐採していた竹の倒れる方向が不明であったこと、片づけを早くしたいとの焦りがあった。	伐採時は、就業員相互の連携と声掛けが必要で、周囲の状況、逃げ場を確保して作業に当らなければならない。
26		梯子に乗って作業していた時	剪定作業中に、ハチに刺されたが病院へ行かず、続行した。その後再びハチに襲われそうになり避けようとして、足を滑らせ転落した。	ヘルメットは着用していたが、安全帯を着用してなかった。蜂の巣があることを知りながら作業を続行した。	蜂に刺された時は、すぐ病院へ行く。また、高所では安全帯の着用をする。また、蜂スプレーを携行する。
27		門かぶりの松剪定後、地面に降り、脚立を移動させようとした時	脚立のストッパー解除を忘れて、転倒しそうになった。脚立の周辺足元が、剪定クズで見えにくかった。	足元の整理が大切。	足元の整理整頓に心掛ける。障害物等には目立つように何か印をしておく。
28		脚立に上がってキョウチクトウを大鋏で剪定していた時	脚立の上部付近で、両手で大鋏で勢いよく切っていた。一発で切れる限界と思われる太い枝の時、特に力を入れたが、切れ切れになり体が後ろに跳ね返された。一瞬の出来事なのでハットした。	脚立を上部で、身体を固定せず作業して、不安定状態であった。大鋏の限界を考えず力任せに切った。	剪定鋏で切るのが無理な場合は、ノコギリで先に切っておく。脚立の上で後ろに倒れた時のために、ロープ等で繋いでおくことが必要と思った。

通し番号	職種	どうしていた時	ヒヤリハットした時の状態	この時の問題点	この体験で反省・注意・改善したこと等
29	剪定	集合住宅の隣接している、中間部の雑木（モチの木）の伐採時	高さ5m、根元25cm程度のモチの木を、二人で伐採中、チェーンソー操作者と、ロープで枝を引っ張っていた者として、 <u>切断時に、バランスが崩れて、危険と感じた。</u>	<u>付近に電線類</u> があり、また、樹木が二股状態で足場も悪い箇所であった。	作業現場の確認が非常に大切。伐採木が二股の時、 <u>バランスを考慮して切断</u> することが必要と思った。
30		斜面でのミカンの木の伐採中	チェーンソーで切断しながら移動中に、 <u>斜面で足を滑らせ</u> 、また、雑草も茂っており <u>足を取られ危険</u> を感じた。	斜面であり、雑草等の除去、 <u>昔の切株</u> など足場の <u>確認</u> を十分するべきであった。	斜面での <u>足場対策</u> 、作業現場の安全確保。低木の伐採を <u>安易に感じていた</u> 。
31		脚立上で剪定していた時	左手で腕位の太さの枯木を持って、上に登ろうとして <u>力を入れた時</u> 、枯木が折れてヒヤッとした。右手は別の木を持っていた。	木の枝で、枯木の全体が良く見えなかった。 <u>事前の確認が不十分</u> であった。	どんな場合でも、 <u>よく確認</u> してから作業に取り掛かることが大事であると感じた。
32		剪定作業の準備時	<u>浄化槽の蓋</u> に足を掛けた時、蓋が劣化していたため、 <u>踏抜いた</u> 。危うく浄化槽に落ちるところだった。ケガも補償も発生しなかった。	浄化槽が通路上にあって、家の人も歩いている場所なので、 <u>問題ないと思</u> った。	浄化槽の蓋は <u>安全と思いがち</u> だか、古い団地であり劣化すると弱いものだと気づいた。もしお年寄りの会員なら大げがをしていたと思われる。
33		剪定作業時	剪定作業中、脚立の移動時に <u>枝に掛けていた鋏が落下</u> し、足元に落ちた。	剪定道具の一時保管について枝等の <u>チョイ置きは避</u> ける。	剪定道具の <u>一時保管は、紐等で落ち</u> ないようにするか、枝には置かないようにする。

通し番号	職種	どうしていた時	ヒヤリハットした時の状態	この時の問題点	この体験で反省・注意・改善したこと等
34	剪定	剪定クズの整理時	クズ処分作業中、裏口の門扉の上部の梁に頭を打ち付けた。	通路の安全確認	周囲の環境を確認する。 <u>ヘルメットの完全着用。</u>
35		クスノキの剪定時	脚立上の作業で、 <u>固定チェーンがたるんでいた</u> 状態で、足元設置部が <u>タイル張り</u> の上で、脚立の前後どちらかがゆるんでいたため、張った時ヒヤッとした。	脚立設置時の <u>チェーンの張り</u> 状況の確認。	脚立設置個所に対する対策として、この時は、下部がタイルであったが、良く考えて脚立を立てれば問題がなかった。滑りやすいときは、 <u>脚立の滑り止め防止</u> のために木に <u>ロープで脚立を固定</u> すること。
36		脚立の脚がスリップした時	松の剪定作業中、設置脚立の後方の脚が <u>スリップ</u> して、バランスを失いかけた。	前日の雨で地面が濡れ、草等も湿っていて、 <u>土地も軟弱</u> であった。	三脚と樹木とを <u>ロープで固定</u> した。 <u>天候も考慮して作業</u> し、ロープ等で補助的な安全確保もする。
37		剪定作業時	背の高いバベの木の剪定作業中、刈り込み <u>鋏</u> を下に落とした。	<u>高木</u> であった。	高木での作業時、下に人がいるかどうか、壊れる物はないか、 <u>常に周囲を見て作業</u> する。刃物類が下に落ちないように注意する。
38		脚立使用の剪定作業時	4m位のカイツカを、脚立に乗り下部から見上げて剪定中、 <u>目や口にゴミ</u> が入りそうになった。	<u>保護具の着用</u> が必要。	下から、見上げて作業する時は、枝、葉が降りかかるので、 <u>メガネやマスク</u> など保護具を着用して作業しようと思った。

通し番号	職種	どうしていた時	ヒヤリハットした時の状態	この時の問題点	この体験で反省・注意・改善したこと等
39	剪定	脚立で剪定作業時	白アカシアの古木を剪定作業中、上に登ろうと片方の手で枝を握ったら、 <u>枝が腐食</u> していて、転落しそうになった。安全帯を着けていて助かった。	脚立でなく、 <u>ハシゴの準備</u> が必要である。	安全帯を着けていたので転落を免れた。 <u>高所作業では、脚立でなくハシゴ等の事前準備</u> が必要と思った。
40		剪定作業時	脚立の最上部で、片方の手で枝を支えて作業中、その <u>枝が折れて</u> 体のバランスを失い転落しそうになった。安全帯は使用していた。	脚立の使用方法及び選定	<u>木の高さに合った脚立</u> を使用する。 <u>安全帯</u> の使用。
41		剪定作業時	低木の垣根の剪定作業中、 <u>ハチにさされた</u> 。幸い、スズメバチでなかった。	ハチを見かけたら、 <u>離れる</u> 。	ハチを見かけたら <u>作業を中止</u> し、2m位離れた場所で作業した方が良い。
42		脚立使用の剪定時	コンクリート、タイル張りの <u>床にシートを敷いて</u> 、その上に脚立をセットして、2～3段登った時に、脚立の脚が広がった。	設置場所の確認。 <u>広がり防止</u> のロープの使用不備。	シートの上に脚立を設置する場合、滑りやすくなるので注意が必要。広がり防止のロープ、チェーンの設置確認。 <u>原則、シートの上に脚立を立てないこと</u> 。
43		雑木の伐採作業時	雑木伐採時、倒れる <u>方向が急変</u> した。	急傾斜地で、かつ、 <u>ロープの張り方</u> が問題。	伐採作業で倒す方向に根切りして、ロープもして、危険のないように作業したが、樹木本体が太く、樹木の曲りが大きく予想外の方向に倒れそうになった。 <u>樹高の高い木は、上部より何段かに小切り</u> してから作業するようにし、ロープ張りにも注意して作業する。

通し番号	職種	どうしていた時	ヒヤリハットした時の状態	この時の問題点	この体験で反省・注意・改善したこと等
44	剪定	庭木の剪定で移動時	泉水の石積の天端に、粒石があり、そこを踏んだ時滑って体のバランスを崩して泉水に転倒した。泉水に水はなく、幸い、伐採した木くずが入っていたのでクッションとなり、また、ヘルメットも着用していたので無傷。靴も滑りにくいものを履いていた。	足元の安全確認。	常にヘルメット着用し、靴も滑りにくいものを履いて作業すること。保護具の重要性を痛感した。
45		ソテツの剪定時	ソテツの奥を剪定鋏で手入れ中、ハチの巣があることに気付かず、触れてしまってハチにさされた。	下見が不十分であった。ハチ用スプレー等を使用していなかった。	夏場の作業では、ハチ用スプレーを使用し、ハチがいるものと思って作業にあたる。
46	除草	ダンプに積込中	ダンプに草を積込中、荷台の高さ以上になり、踏み込んでいるとき長い草(カヤ)のため荷台の枠が草で見えず隠れたため、枠の外側を踏み込み、片足が外に出でバランスを失い落下しそうになった。	軽ダンプの荷台は狭く、荷台の枠が隠れた時は、踏抜かないよう注意する。過重積載にならないよう注意する。	積み込み中、荷台の中心部に差し込み、右手でつかみ重心を保って踏込作業をする。万一でも、落下を防げる。ただ、短く切り込むことは、時間がかかりかかる。
47		除草作業時	庭の外側を草刈機で、除草中に小石などが飛散して隣家に被害の恐れがあった。	飛散しそうな状態の場所を、草刈機を使用することが問題である。	危険な場所は、手刈りしようと思う。

通し 番号	職 種	どうしていた時	ヒヤリハットした時の状態	この時の問題点	この体験で反省・注意・改善したこと等
48		草刈機使用時	草刈機を使用中、 <u>小石が飛散</u> したことでヒヤリハットした。	<u>バラがたくさん生え</u> ていた。	危険な場所は、 <u>手刈り</u> しようと思う。
49		草刈作業時	草刈作業中、その場に置いてあった針金が、草刈機の刃に接触し、 <u>針金が飛んで顔</u> にあたりそうになった。	<u>事前確認</u> の不足。	事前に現場の確認を十分にして、物を置いている回りは手刈り等をし、草刈機を使用するのに <u>邪魔な物は避けて作業</u> する。
50	除 草	畔の草刈りをして いた時	田んぼの畔の草刈時、 <u>朝露で草が濡</u> れていて、足が滑りそうになり、バランスが崩れた。	草が多く、又、背が高くなっていて <u>刈るのに一生懸命</u> になっていた。	<u>周囲の状況を良く理解</u> した上で作業をするようになった。特に、足元の確保が重要だと思う。
51		草刈作業時	草刈作業中、 <u>後方に下が</u> った所、 <u>斜面下の水路</u> に落ちそうになった。	近くに作業中の人がおり、 <u>その人を避け</u> ようとした。	周囲の <u>状況の把握</u> を十分しておく。
52		草刈作業中	草刈作業中に <u>斜面に落葉</u> があり、滑りそうになった。	<u>斜面に落葉</u> がある状態であった。	<u>ゆっくり</u> 作業する。斜面での作業は、足場の確保をして安全対策をとる。 <u>作業前の危険箇所のチェック</u> 。
53		北方向から左折しようとしていた時	草刈積載の車で、交差点を信号待ち後、青で左折しようとした所へ、南方向から右折車が強引に割り込み、道路の左に逃げて停車し、 <u>接触は免れた</u> 。	左折車優先の所に、 <u>無理やり</u> 右折してきた。	無茶な運転者がいるので <u>油断できない</u> と思った。

通し 番号	職 種	どうしていた時	ヒヤリハットした時の状態	この時の問題点	この体験で反省・注意・改善したこと等
54		草刈機で草刈時	草刈中、草刈機の刈刃が直径20cm、長さ30cmの木片に接触し、 <u>キックバック</u> で草刈機が50cmほどはじかれ、木片が50cmほど飛んだ。	草丈50cmほどで木片が見えなかった。また、刈刃が255mmとキックバックが起きやすかった。	同僚が3m位離れたところで作業しており、 <u>もう少し離れて作業する</u> 。
55	除 草	草刈作業を実施時	アパート駐車場に止めてあった運転席ドアガラスを破損させた。刈払い機の音が大きく、ガラス破損にも気づかず、 <u>石を撥ねた</u> 意識もなかった。	作業場に小石はあったが、距離も7mと離れており、 <u>大丈夫と思った</u> 。依頼主に、車の移動要請をしなかった。 <u>シートなどによる防護も未実施</u> だった。	ブルーシートでの防護を実施する。 <u>事前の車両移動をお願いする</u> 。万一、移動できないときは、 <u>作業を中止</u> する。被害者にはたとえ修理等の補償をしても、多少なりとも不便さが残る。同僚、先輩が築いた信頼も損なう。「これくらいなら大丈夫」の <u>自己判断の甘さを痛感した</u> 。
56		右折していた時	草を運搬中、青色で右折中に、 <u>突然</u> 左からトラックが右折してきて当りそうになり事故にはならなかったが一瞬ヒヤリとした。	<u>何回も確認</u> することが大切。	周囲をよく見る。今まで以上に、慎重運転をする。そして、 <u>油断しない、慌てない</u> 。
57		草刈作業時	伐根にあたり <u>キックバック</u> した。	草刈機の <u>操作ミス</u> です。	作業中は、 <u>近くに人が来ないよう</u> 作業前から注意しておく。
58		草刈機の刈刃が近づいた時	公園内で、新人が草刈機を操作中、声掛けしたところ、草刈機を止めずに身体と同時に <u>機械を回してきた</u> 。回転中の草刈機が180度目の前にきた。	<u>声掛けされた時は</u> 、機械を止めて声の方向へ向く。	<u>新人教育</u> が大切。

通し番号	職種	どうしていた時	ヒヤリハットした時の状態	この時の問題点	この体験で反省・注意・改善したこと等
59		草抜きをしている時	草抜きをしていて後方にU字溝があって、足が入りそうになってヒヤッとした。	事前の点検と始業前のミーティング、周囲の確認が不十分。	作業前のミーティング。事前の現場確認等
60		軽トラックに刈った枯葉を積み込む時	軽トラックから降りようとした時、足がもつれて転びそうになった。	足元の確認が不十分。踏み台及びハシゴを準備する必要がある。	高齢になると足が弱くなっていることを知った。十分足元を見るようになった。
61	除	延長コードを延ばしていた時	枯れた草等を切る準備のため、延長コードを後ろ向きに引っ張っていた時、階段につまづき倒れそうになった。	全体を見て注意点を知ること。	足元の確認を十分するよう、また、状況を知ること。
62	草	信号機のない交差点を刈り草運搬車で渡ろうとした時	中央分離帯のある片側4車線の道路に右折して、入ろうとした時、近くまで車が接近していた。	十分渡れるまで、待つこと。	車の通行に気をつけ、十分渡れることを確認し、運転するようになった。信号機のある交差点で、右折するようになった。
63		渡ろうとしていた時	交差点を直進しようとしていた時、左から車がきてヒヤッとした。	左右確認が大事。	十分相手の車の状況を見ること。スピード、徐行、一旦停止に気をつけるようになった。
64		右折しようとした時	徐行しながら運転していたが、直進してきた車があった。	見通しの悪い交差点で、カーブミラーがあり、よく見る必要があると思った。	一旦停止し、再確認する。徐行をすること。見込み運転をしない。

通し 番号	職 種	どうしていた時	ヒヤリハットした時の状態	この時の問題点	この体験で反省・注意・改善したこと等
65	除 草	除草作業時	除草中、土の中からハチが出てきて、刺されそうになった。	<u>草が生い茂っている山の中</u> であった。	ハチが出てきそうな場所では、周囲に気をつけ、 <u>殺虫剤を携帯</u> する。
66		斜面の草刈作業時	斜面を草刈中、 <u>転倒、転落する作業員を目撃</u> した。	<u>足場を確認</u> してなかった。	斜面の草刈時は、 <u>足場を確保</u> 又は、 <u>命綱を装着</u> して草刈作業を行うように気をつけるようになった。
67	屋 外 作 業	古鉄の選別時	作業中、鉄材切断機(ギロチン)に近づき過ぎたため、 <u>鉄の断片が身体に飛んできた</u> 。ケガが無かったがヒヤリとした。	慣れた作業なので、 <u>油断</u> した。気をつけたい。	今回の体験で慣れた作業ほど、 <u>初心に帰り</u> 仕事に励みたいと思います。
68	屋 外 清 掃 作 業	資源ゴミの収集をしてリサイクルセンターへの搬入時	2トン車で地区の資源ゴミ収集搬入のためリサイクルセンターへ向かっていた。一緒に向っていた前方車両が、 <u>急ブレーキ</u> を踏んだのに気づき、慌てて急ブレーキを掛けたところ <u>横滑り</u> した。幸い大事には至らなかったが、その場所を通るたびに、あの時の「ハット」した気持ちは今でも時折思い出されます。	<u>車間距離、速度</u> に注意しなければなら ない。	当日、付近は道路工事があり、そのため作業員に気を取られた。車間距離を取っていたので追突の回避ができた。これからも、速度や車間距離に注意しながら、 <u>前方注視</u> で安全運転に努めます。

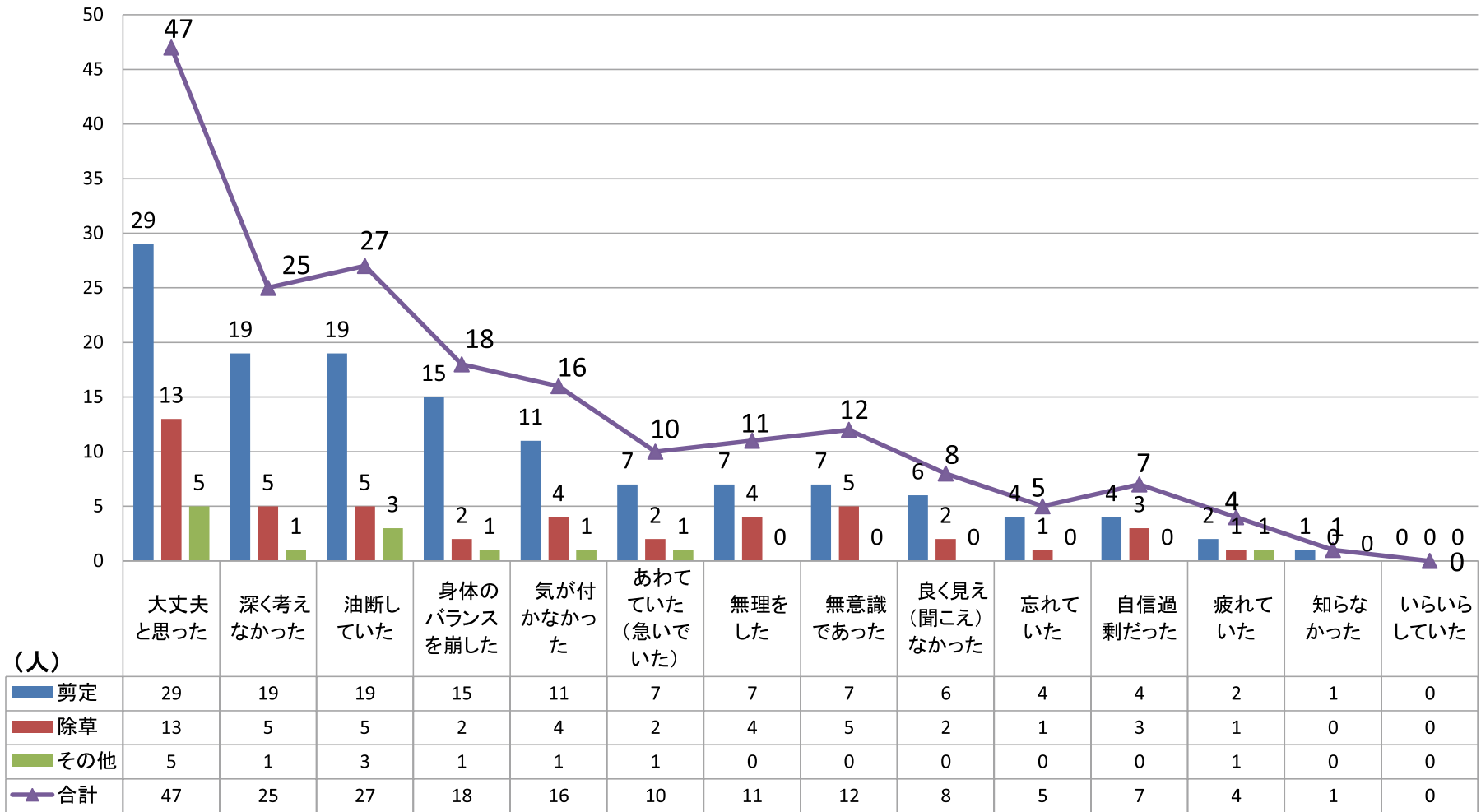
通し番号	職種	どうしていた時	ヒヤリハットした時の状態	この時の問題点	この体験で反省・注意・改善したこと等
69	屋外清掃作業	ゴミの仕分け作業時	ダンプカーで搬入されたゴミを仕分けする場所で、種類別にコンテナに収納する。大型ゴミは、油圧ショベルがバケットハンドではさんで収納している。 <u>仕分け中、目の前にバケットハンドが降りてきて、ビックリした。</u> もし、重機操作者が人に気付かず死角に入っていればと思うとぞっとした。	重機作業中は、 <u>近づかないこと。</u>	重機操作者は、 <u>状況判断</u> しつつ作業する。
70		歩道を清掃時	自転車や歩行者と <u>接触しそう</u> になった。	<u>後ろ向き</u> で掃除していた。	<u>前進で清掃</u> するようにする。 <u>竹ぼうきの柄は、横に振らない。</u> 就業者自身の安全は、自分で守る。
71	屋内作業	鉄板を磨く作業をしていた時	鉄板は箱状で、中の溝をウェスで拭いているとき、上部で右手人差指に <u>擦り傷</u> をおった。	残り4～5分で終業時間のため、 <u>急いで作業</u> をしていた。	時間がないときでも、 <u>急がず落ち着いて</u> 作業する。
72	運搬作業	搬送するためトラックのエンジンを掛けた時	運転席に座らず、ドアを開けてエンジンを掛けた時 <u>サイドブレーキを入れてなくて、ギアもセカンド</u> に入れたままで <u>前日の運転</u> をした人が <u>そのまま帰宅</u> したためにヒヤリとしました。	車から出るときは、 <u>サイドブレーキ</u> を掛けて、 <u>チェンジも中立</u> に入れていることを確認する。	運転時は、 <u>必ず運転席に座り</u> 、各操作箇所を確認する。

通し番号	職種	どうしていた時	ヒヤリハットした時の状態	この時の問題点	この体験で反省・注意・改善したこと等
73	大工	車をバックさせる時	後方に人が歩いているにもかかわらず止まろうとせず、車を動かした。歩いている人も、車を運転している人も <u>どちらも止まろうとせず、動いていた。</u> 歩く人は、足が遅く、一方、車を運転している人は、耳が遠いため危ないと思った。	歩行者も、ドライバーもともに、 <u>自ら気をつけようとしなかった。</u>	高齢であることを自覚して、 <u>より安全に注意</u> をするべき。
74	事務	運転時	見通しの悪いカーブを直進中、 <u>対向車が来てブレーキを掛けた。</u>	<u>急いでおり見通しの悪い狭い道を選んで運転していた。</u>	<u>カーブミラーを見ながらいつでも停車できるように徐行運転をしなければなら</u> ないと感じた。 <u>急がば回れ、なるべく道幅の広い安全な道を運行しよう</u> と思った。
75	家事援助（犬の散歩）	犬の散歩に初めて行った時	リールを最短に持ち人通りの少ない道を散歩し、無事終わろうとした時、県外の対向車両の人に道を尋ねられた。その人が犬に近づき頭を撫でようとした瞬間、その人の手に噛みつこうとしました。 <u>噛み付き癖</u> があることは、知らされていたのに、 <u>うっかりしてました。</u> もう少しで取り返しのつかないことになりそうでした。ヒヤリハットした体験でした。	犬の癖を <u>忘れており</u> 、安全な対応せずに散歩をした。	<u>油断は禁物</u> であるをつくづく思い知らされました。

通し番号	職種	どうしていた時	ヒヤリハットした時の状態	この時の問題点	この体験で反省・注意・改善したこと等
76	途上運転	側道へ入る時	対向車がはみ出してきて接触しそうになった。無事故でホッとしている。	確認が不十分でした。	二重三重の確認の必要性を感じた。
77	屋内作業	ハンマーで杭を叩いていた時	杭がすぐに折れて、 <u>バランスを崩して</u> 倒れた。	古い杭を何回も叩いてのけたので、 <u>弱っていた。</u>	<u>杭の状態</u> を確かめるようになった。
78	業務連絡	軽トラック運転中	団地の出口で、本道に出るため左右確認後、発進しようと思った時、左から車が出てきたが、 <u>急ブレーキ</u> で衝突は免れた。	<u>交差点</u> は念入りに確認する。	交差点などでは、 <u>一旦停止</u> を確実にを行い、左右確認も怠らない。
79		就業現場に行く途中	<u>高齢者マークの付いた車が、意味なく急ブレーキ</u> を踏んで、ハットすることがある。	高齢者運転は <u>要注意</u> すべきです。	時間に <u>余裕</u> をもち、 <u>イライラ運転</u> をせず平常心で運転する。また、車間距離を保ち、飛び出し運転にも対応する。
80	その他	自宅車庫から車を出す時	自宅の駐車場は、歩道のない通学路に面しており時間帯によっては、車庫のシャッターを開けて数分間待たなければ車を出せない状況です。無理をすると <u>接触事故につながる</u> 恐れがあります。	<u>通学時間帯</u> に車を出すと人身事故が発生することもある。	通学時間の少し前に車を出して <u>時間調整</u> をすることで事故防止を図っている。

通し 番号	職 種	どうしていた時	ヒヤリハットした時の状態	この時の問題点	この体験で反省・注意・改善したこと等
81	そ の 他	運転時	カーブミラーのある見通しの悪い三差路を、車を出ようとした時、 <u>ミラーで見えなかった自転車</u> が自車の直前を横切り、ヒヤッとした。	カーブミラーでは <u>見えない箇所がある</u> ことを自覚した。	カーブミラーに頼ることなく、徐行で進む。また、 <u>慣れた道でも、危険を予知</u> したり、時間的な余裕をもって運転する。

ヒヤリ・ハットしたときの状態



〈 特徴と傾向 〉

81件の事例報告のあった作業を見ると「大丈夫と思った」が最も多く、次に「深く考えなかった」「油断していた」と続いている。全体を総括的に見ると、仕事の現場に見合った危険予知をせず、作業に取りかかっていることと、慣れ・マンネリ化が危険要因になっていること、また、時間に焦って、行き来していることがうかがえる。(複数回答もあるため、報告件数とは一致しません)